

# 目次

はじめに  
凡 例

I	モノづくり各論	1
1	信濃のモノづくり環境	
2	戦乱の技術革新 - 鉄砲と医療 -	
3	医学 - 丸山丹治の往診箱 -	
4	薬学 - 信濃の薬、薬草 -	
5	和算 - 寺島宗伴と和算 -	
6	測量 - 伊能忠敬と信濃の測量術 -	
7	天文 - 信濃の天文学 -	
8	和時計 - 渡辺虎松と信濃の和時計 -	
9	写真 - 信濃写真ことはじめ -	
10	本草学 - 信濃の本草学、博物学 -	
11	写生 - 恩田緑蔭と川上冬崖 -	
12	好古趣味 - 川柳将軍塚古墳の鏡 -	
13	養蚕 - 養蚕とモノづくり -	
14	出版 - 井出道貞と『信濃奇勝録』 -	
15	語学 - 佐久間象山のハルマ出版計画 -	
16	近世から近代へ - 田中芳男と博覧会 -	

II	論考	56
1.	「モノの収集と製造 - 地方における近代化について -」	
	ヴォルフガング・ミヒエル	
2.	「江戸・明治期の信州における医療器械について」	
	ヴォルフガング・ミヒエル	
3.	「信州における和算の広まりと特徴」	
	小林 博隆	
4.	「近世信濃の本草学・博物学年表」	
	青木 歳幸	
III	資料解説	87
IV	特別展開連行事	107
1.	江戸のモノづくり第7回国際シンポジウム	
2.	江戸のモノづくり探訪①～⑥	

参考文献  
協力者一覧

# 凡 例

1. 本書は平成17年10月1日から11月23日までを会期とする第50回特別展『信州モノづくり博覧会』の解説図録である。
2. 図版は展示資料の一部であり、図録掲載と展示の順序は一致しない。
3. 展示資料は会期中に一部展示替えを行う。
4. 指定文化財は重要文化財は◎、県指定文化財は◆、市町村指定文化財は△で示した。
5. 図録には次の方から玉稿を賜った。
  - ・ヴォルフガング・ミヒエル氏 (九州大学大学院教授)
  - ・小林博隆氏 (長野県立松代高等学校教諭)
  - ・青木歳幸氏 (長野県立上田高等学校教諭)また、展示企画、資料調査、写真撮影などについて、多くの機関並びに個人の援助を賜った。巻末に記し、感謝の意を表する。
6. 本文中の敬称は略させていただいた。
7. 本書に掲載した写真は長野市立博物館職員が撮影した。また、下記の機関から写真の提供をうけた。
  - ・飯田市美術博物館 ・伊能忠敬記念館
  - ・慶応義塾図書館 ・国土地理院
  - ・国立公文書館 ・市立長浜城歴史博物館
  - ・東京国立博物館 ・東京都立中央図書館
  - ・名古屋市博物館
8. 本展覧会及び解説図録は降幡浩樹が担当し、館員がこれを補佐した。また、文部科学省科学研究費補助金特定領域研究『江戸のモノづくり』ならびに同「信州プロジェクト実行委員会」の協力を賜った。
9. 表紙の写真は槽時計(古川寺)、小方儀(小林太郎)、奇應丸薬袋(高瀬資料館)、養蚕乾湿計(清水憲之助)、茶運び人形(個人)。裏表紙写真は渾天儀(田中本家博物館)。

## はじめに

本州のほぼ中央に位置する長野県。2,000～3,000m級の山々に囲まれ、東西120km、南北212kmという南北に長い地形は、本州で3番目に広く、8つの県に接する。千曲川、木曾川、天竜川など8つの水系に刻まれた盆地や谷は、血管のようにはりめぐらされた街道や生活の道、多数の峠道によって外からの異質多様な文化が移入され、在地の文化と融合して、それぞれ独自の文化をはぐくんできました。信濃の厳しく、そして豊かな自然環境の中で、人々は知恵と経験による創意工夫から、様々なモノづくりを行って豊かな生活文化を紡いできました。

今回の展示では、江戸時代から明治時代の前半に焦点をあて、医学、薬学、和算、測量、天文、和時計、写真、本草学、写生、好古趣味、養蚕、出版、語学の各視点からその独自のモノづくりに迫ろうとするものです。

副題のモノづくりの東西交流に象徴されるように、県内はもとより、全国的、世界的な視点からも、モノづくりの比較展示を試みています。

地域の歴史・文化・人によってはぐくまれたモノは、「地域遺産」と呼べるものです。このモノとの対話を通して、信濃のモノづくりの奥深さと楽しさに触れていただき、さらに未来へと繋げていければと願っています。

最後になりましたが、貴重な資料をご出品いただきました所蔵者の皆様をはじめ、ご協力を賜りました関係各位に対し、厚く御礼申し上げます。

平成17年10月  
長野市立博物館